

WAIC2025（2025世界人工智能大会）徹底分析レポート

中国AI最前線：トレンドと特徴の全貌

エグゼクティブサマリー

WAIC2025は中国AI産業の「商業化実装」への本格的な移行を示す転換点となった。「智能時代 同球共済」をテーマに、技術デモから実用的な産業応用へとシフト。特に具身智能（人形ロボット）の大規模展開、開源大模型の台頭、政府主導のAI治理強化が顕著な特徴として浮上した。

1. イベント全体像：過去最大規模の拡張

1.1 基本データ

規模の拡大

- 展示面積: 7万m²（前年比34.6%増、2024年は5.2万m²）
- 参加企業: 800社以上（前年比60%増）
- 展示製品数: 3,000点以上（前年比2倍）
- 首発・首秀製品: 100点以上

参加者の国際性

- 総参加者: 1,200名以上のAIリーダー
- 参加国: 30カ国以上
- トップ科学者: 図霊賞・ノーベル賞受賞者12名、中外院士80名以上

論壇・フォーラム

- 総論壇数: 100以上
- 主要テーマ: AI安全治理、大模型創新、算力新基建、具身智能、智能終端、AI4S、開源開放、国際合作、投融资

1.2 展館構成（4大テーマ館）

H1 終端体験館: 具身智能、AIGC、文娛互動 H2 行業応用館: 智能駕駛、智慧城市、金融科技、工業製造 H3 核心技術館: 大模型、算力、語料 H4 全域連接館: 初創企業、資本対接、産業合作

2. 最重要技術分野とテーマ分析

2.1 生成AIと大規模言語モデル（LLM）

主要な発表製品（40以上の大模型が展示）

阿里巴巴 (Alibaba)

- **通義千問3シリーズ:** 全面開源、グローバルダウンロード数4億突破
- Meta Llamaを超え世界第1位の開源模型ファミリーに
- **夸克AI眼鏡:** 初の自主開発AIグラス
- **阿里雲百煉平台:** "鎮館之宝"受賞、20万開発者

騰訊 (Tencent)

- **混元3D世界模型1.0:** 業界初の開源3D世界生成モデル
- 一句話で360度3D世界を生成
- 上海人工智能実験室評測でグローバル第1位
- **Tairos開放平台:** 国内初のモジュール化具身智能プラットフォーム

百度 (Baidu)

- **文心大模型4.0 Turbo:** 企業顧客向け全面開放
- **ERNIE大幅価格引下げ**
- **秒哒平台:** "一句話生成応用"の零コード開発
- **NOVA数字人技術:** 羅永浩直播間で5,500万GMV達成

華為 (Huawei)

- **昇騰384超節点:** 業界最大規模 ("鎮館之宝"受賞)
- 384顆昇騰NPU、総算力300Pflops
- 80以上の大模型適配済、11大行業解決方案

トレンド

1. 開源戦略の加速
2. 多模態化 (文生文・図・視頻から3D世界生成)
3. 端側部署 (軽量化0.5B-7Bモデル)
4. 垂直応用 (製造、金融、医療、教育特化)

2.2 具身智能とロボティクス：量産元年

歴史的規模

- **人形機器人数:** 150台以上 (史上最大、2024年は18体)
- **出展企業:** 25社以上

重要製品

特斯拉: Optimus Gen 2展示、2027年50万台目標 **宇樹科技:** H1人形機器人（奔走機能）、G1格闘機器人（9.9万元、即完売） **智元機器人:** 靈犀X2、中国移动7,800万元契約 **擎朗智能:** XMAN-F1、爆米花・飲料製作実演 **上海電気:** 167cm、50kg、38自由度人形機器人

国家地方共建人形機器人創新中心

- "青龍": 全球初の開源公版人形機器人
- "龍躍": 全球初の具身運動大模型

応用シーン

1. 工業製造（自動化、危険作業代替）
2. 服務業（餐飲、酒店、零售）
3. 医療物流（器械配送、検驗科標本伝達）
4. 倉儲物流（智能分揀、扫码、搬運）

商業化進展

- 中国移动1.24億元採購
- 宇樹G1: 9.9万元で京東即完売
- 特斯拉2025年1,000台工場部署計画

2.3 自動運転とスマートモビリティ

智能駕駛

- 特斯拉、蔚来等が多款可交互體驗車型展示
- 小馬易行、百度智行等が無駕駛人許可取得
- 易控智駕"著山2.0"露天鉏無人運輸方案

eVTOL（空飛ぶクルマ）

- 垂直起降電動飛行機展示
- 時速320km、1回充電200km、騒音65dB以下

2.4 AI4Science（科学智能）

重要プロジェクト

- "伏羲"氣象大模型: 氣象予測
- "啓明星"蛋白質設計模型: バイオ応用
- "百團百項"工程: AI4S成果落地
- 上海AI研究院: Patent Max等5項創新成果

応用分野: 氣象、材料科学、創薬、蛋白質設計、量子計算

3. 主要企業の戦略と新製品

3.1 中国大手テック企業

華為 (Huawei) : 算力基盤の絶対的リーダー

- 展示面積800m² (全会場最大)
- 昇騰384超節点実機展示
- 11大行業解決方

阿里巴巴: 開源戦略で世界制覇

- 通義千問グローバルNo.1開源模型 (4億DL)
- 今後3年で3,800億元投資

騰訊: 3D・ゲーム領域で突破

- 混元3D世界模型1.0開源
- Tairos具身智能開放平台

百度: ビジネス応用で先行

- 文心大模型価格大幅引下げ
- 秒哒平台で零代碼開発普及

蚂蚁集团: 金融シーンAI深化

- AQ健康応用 (鎮館之宝)
- "数智支払"戦略

3.2 AI新興勢力

MiniMax: 全棧通用智能体MiniMax Agent **智谱AI**、阶跃**星辰**: 垂類大模型 **DeepSeek**: WAIC不参加も業界最大影響力 (開源推進)

3.3 国際企業

Google、AWS、西門子 (Industrial Copilot国内初披露)、施耐德電氣

香港・台湾: 香港18社、台湾10社初組団

4. 重点分野の具体的進展

4.1 算力新基建

国産算力の躍進

- 華為昇騰384超節点: 300Pflops

- 上海算豐Shanghai Cube: 高密度算力機櫃
- 新世代訓推一体GPU: 百億参数級模型対応
- TPU平台: 1024片芯片高速通信

4.2 智能終端

AI眼鏡: 阿里夸克、XREAL、Halliday、Rokid **AIPC:** 聯想、科大訊飛 **情感陪伴:** 中興"麻薯"AI萌寵

4.3 智慧城市・治理

- 上海×澳門: 城市多災種早期預警工具箱
- 量子城市空間智能創新建設專題論壇
- 中移物聯: 物聯水利大模型

5. 中国政府のAI政策と規制動向

5.1 開幕式での政府表明

李強総理の基調講演（7月26日）

- 習近平主席指示: "AI加速迭代、爆発式発展"
- 政策支持と人材培養強化
- 安全可靠な製品開発推進

科技部の動向

- 科技部部長陰和俊: 人工智能全球治理会議主持
- "AI治理は全人類命運の重要課題"

5.2 重要政策文書

《人工智能全球治理上海宣言》發布 《中国智・惠世界（2025）》案例集 《AI安全國際對話上海共識》 世界人工智能合作組織（WAICO）倡議 全球人工智能創新治理中心設立

5.3 上海市のAI産業政策

"模塑申城"工程

- "5+6"重点領域（製造、金融、医療、教育、交通等）
- 累計82款大模型備案通過

具身智能量産推進

- 国地共建人形機器人創新中心
- "青龍"開源公版機、"龍躍"具身運動大模型

三大先導産業母基金

- 第3批子基金遴選啓動

上海AI産業規模

- 2018年: 183社、1,340億元
- 2023年: 348社、3,800億元超

6. AI投資とビジネストレンド

6.1 大会成果数値

投資・商業成果

- 署名項目: 32項目、総投資額450億元
- 意向採購金額: 162億元
- 全網流量: 23.6億超

6.2 投融資トレンド

重点投資領域

- 算力基盤（国産芯片、智算中心）
- 垂類大模型（製造、金融、医療、教育）
- 具身智能（人形機器人商業化）
- AI応用（弁公、營銷、客服SaaS）
- 端側AI（低功耗、高性能芯片）

商業化加速シグナル

- 大模型価格戦
- 零代碼開発平台普及
- 中国移动1.24億元機器人採購
- POC→商業契約移行

7. WAIC2024との比較分析

7.1 定量的変化

指標	WAIC2024	WAIC2025	変化率
展示面積	5.2万m ²	7.0万m ²	+34.6%
参展企業	500社	800社	+60%
展品数量	1,500点	3,000点	+100%

7.2 定性的変化

テーマの進化

- 2024年: "以共商促共享 以善治促善智"
- 2025年: "智能時代 同球共濟"（より実践的・国際協調重視）

技術焦点の変遷

- 大模型: PPT発表 → 実装・開源・価格競争
- 具身智能: 少数展示 → 大規模実演（18体→150台）
- 算力: 概念説明 → 実機展示
- 応用: PoC → 商業契約

産業成熟度

- 2024年: "百花齊放"（多様な萌芽）
- 2025年: "落地為王"（実装が王道）

国際化の深化

- WAICO倡議、全球AI創新治理中心設立
- 40カ国国際組織高官参加

8. WAIC2025が示す中国AI全体トレンドと特徴

8.1 五大核心トレンド

トレンド1: 「応用為王」 - 実用主義への転換

背景

- 大模型基礎能力が一定水準到達
- VC投資が技術→商業価値評価へ
- 企業がコスト削減・効率向上要求

具体的表現

- 機器人が爆米花、麻雀、接客等実演
- 零代碼平台で非技術者もAI活用

- 価格戦開始（百度文心大幅値下）

産業影響

- SaaS型AI応用急増
- 業界特化型Agent大量出現
- ROIが最重要KPI

トレンド2: 「開源大潮」 - オープンソース戦略の勝利

主要プレイヤー

- 阿里通義千問: グローバルNo.1（4億DL、14万衍生模型）
- 騰訊混元: 3D世界模型等開源
- 中国移動"九天"3.0
- DeepSeek: 未出展も最大影響力

生態効果

- 全球開発者が中国模型基盤に
- 技術壁壘突破、コスト優位
- Meta Llama超え、"中国標準"萌芽

トレンド3: 「具身智能量産」 - ロボット産業爆発

量産シグナル

- 特斯拉: 2025年1,000台、2027年50万台
- 中国移動: 1.24億元大規模採購
- 宇樹G1: 9.9万元、京東即完売

技術成熟要因

1. 大模型賦能（環境理解・決策向上）
2. 感知技術（多伝感器融合）
3. sim2real（仿真訓練精度向上）
4. 供給鏈（国産化・低コスト化）

産業鏈完備: 核心技術→零部件→整機製造→応用集成

中国優位性

- 製造業基盤（世界最大市場）
- 応用場景豊富（14億人口）

- 政策支持
- 車企参入（智駕技術転用）

トレンド4: 「算力自主化」 - 国産インフラ突破

技術突破

- 華為昇騰384超節点: 300Pflops
- 上海算豊: 高密度機櫃
- 沐曦、雲合: GPU/TPU替代品
- 80以上大模型適配昇騰

戦略意義

- 米国制裁突破口
- 自主可控実現
- コスト優位

トレンド5: 「政府主導強化」 - 国家戦略昇格

政策体系完備

1. 頂層設計: 習主席指示、李総理出席
2. 国際枠組: WAICO倡議、全球治理中心
3. 地方政策: "模塑申城"、三大先導基金
4. 規制体系: 大模型備案、安全評価

政府角色: 引導者、協調者、保障者、監管者

拳国体制の顕在化

- 央企大規模参加
- 産学研融合
- 国際統一戦線

8.2 中国AI独自の特徴

特徴1: 「産業応用優先」 - To B重視

米国との対比

- 米国: 基礎研究→技術突破→応用
- 中国: 場景需求→技術適配→大規模部署

優位領域: 製造業AI、智慧城市、金融科技

特徴2: 「生態協同強調」 - プラットフォーム戦略

大手企業戦略

- 開源模型+開発平台+行業解決方案
- 例: 阿里雲百煉 (20万開発者、70万Agent)

軟硬一体追求: 芯片-系統-模型-応用の垂直整合

特徴3: 「規模化快速部署」 - スピード優位

背景

- 14億人口市場
- 世界工場基盤
- 政策支持 (実証容易)

事例

- 上海34款大模型備案 (全国305款)
- 宇樹京東即完売
- 智元7,800万元契約

特徴4: 「コスト意識強烈」 - 低価格競争力

技術路線

- DeepSeek低算力訓練
- 軽量化模型端側部署
- 開源活用でライセンス費削減

価格戦: 百度文心値下、API調用価格競争

特徴5: 「国際化と自主化の両立」 - 二元戦略

国際化

- WAICO倡議、全球治理参加
- 開源で全球開発者獲得
- "一帯一路"協力

自主化

- 国産算力突破
 - 自主可控生態構築
 - 米国制裁対応
-

9. 課題と展望

9.1 直面する課題

技術面

1. 基礎研究不足（米国に後れ）
2. 高端芯片（3nm以下制裁影響）
3. AI安全（幻覚、偏見、悪用）

産業面

1. 収益模型不明確（黒字化未達成多数）
2. 人才競争（頂級科学者不足）
3. 応用深度（表層応用多、核心業務替代少）

政策面

1. 規制平衡（創新vs安全）
2. 国際協調（標準・倫理統一困難）
3. データ治理（プライバシーvs効率）

9.2 今後の展望（2025-2027年）

技術演進

- **2025年下半年:** 推理大模型競争、端側AI量産、人形機器人初步商業化
- **2026年:** 多模態模型主流化、量子計算+AI融合、家庭応用開始
- **2027年:** AGI雛形可能性、人形機器人年産10万台級、AI新産業形態

産業格局

- 寡頭化: 阿里・騰訊・百度・華為"四大天王"
- 長尾化: 垂類応用で数千社共存
- 国際競争: 中米"双模式"並存

政策方向

- 国内: 地方政策深化、算力新基建繼續
 - 国際: WAICO設立、中国主導治理規則
 - 規制: 備案制度完備、AI安全立法
-

10. 結論：中国AI"落地為王"新時代

WAIC2025は、中国AI産業が**「技術デモンストレーション」から「商業化実装」へ決定的に転換**した歴史的瞬間として記憶されるだろう。

核心メッセージ

1. 実用主義の勝利: "応用為王"が産業共通認識
2. 開源の勝利: 阿里通義千問が世界No.1開源模型
3. 具身智能元年: 150台展示、1.24億元採購
4. 算力自主化: 華為昇騰等、自主可控インフラ確立
5. 政府主導: WAICO倡議、全球治理中心

中国AIの独自性

- To B優先: 産業応用深化
- 生態思維: プラットフォーム戦略
- 速度優位: 快速大規模部署
- コスト競争力: 低算力、価格戦、開源
- 拳国体制: 政府-国企-民企-科研協同

日本への示唆

1. 危機感: 中国AI商業化速度は想像以上
2. 協力機会: 開源生態、垂類応用連携可能
3. 差別化: 基礎研究、高精度センサー優位堅持
4. 人材: 中国AI人材吸引と自国育成両立

最終評価

WAIC2025は、中国が**「AI応用大国」から「AI強国」への跳躍を本格化させた証左。既存技術の徹底的実装・スケール化で競争力を築く戦略が明確化。今後3-5年、中国AIは量（規模）→質（効率）→新（創新）**の螺旋上昇を続け、グローバルAI産業地図を塗り替える可能性が高い。

報告書作成日: 2025年10月

情報源: WAIC2025公式発表、主要メディア報道、参展企業発表資料

調査方法: ウェブリサーチ、公開資料分析

免責事項: 本報告書は公開情報に基づく分析であり、一部推測を含む。技術・政策の急速な変化により、記載内容が陳腐化する可能性がある。